

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	船橋市東簡易マザーズホーム		
○保護者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 個別療育、リハビリでは一対一で個々の発達状況や特性に合わせた指導を受けることができる 保育士、看護師、理学療法士、作業療法士等多くの専門職が連携して子どもを支援している 	<ul style="list-style-type: none"> 個別療育やリハビリで指導した内容は職員間で情報共有し、集団療育内でも活かしている 家庭では行えない経験が積めるようにしている 各専門職の視点から子どもに対して関わっており、日々の振り返りやカンファレンス等で共有している 	<ul style="list-style-type: none"> 個別療育やリハビリ以外の運動あそびや自主活動等の集団療育場面でも個々に関われるように心がけている 専門職間での情報交換、勉強会等を行い、また外部の研修会に積極的に参加し専門的支援の質の向上に努めている
2	<ul style="list-style-type: none"> 母子通園のため保護者と情報共有がしやすい環境である、また保護者同士の交流も図りやすい 更衣や食事などの生活面での課題をその場で保護者に伝え、関わるができる 	<ul style="list-style-type: none"> 登園時に保護者から子どもの日々の様子や変化、受診報告などの情報を聞き取り共有している 季節行事や懇親会、家族参加日等で保護者同士で交流できる機会をつくっている 食事の様子を観察し気になる様子がある場合は摂食学習会への参加や受診時に相談するように促している 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や定期健診については多くの方が参加できるように日程や環境を調整していく
3	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアの必要なこどもの通園、分離にも対応している 定期健診や心理発達相談・ことばの相談を受けることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師在勤のため医療的ケアの必要なこどもが安心して登園できる、また分離時に診療情報提供書や医師の指示書もとに安全な医療的ケアが提供できる体制をとっている 心理発達相談やことばの相談の内容をカンファレンスで共有し、日々の療育に活かせるように意識している 	<ul style="list-style-type: none"> 安全かつ適切なケアを維持するため、ケア毎に指示書を細分化し、より個別性に合わせた指示書となるよう改訂を行っている

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 併用している保育園や他施設との情報共有や相互理解が不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて連携をとり、こども発達相談センター経由で保育園巡回も行っているが、相互理解を深める取り組みや機会はあまりない 	<ul style="list-style-type: none"> 相互理解についてはマザーズホームの情報を発信していくとともに、施設見学、共通の研修会などの機会を通して深めていく
2	<ul style="list-style-type: none"> 保育園やこども園との交流や地域のこどもと交流する機会がない 地域住民との交流や行事などが行えておらず、地域に開かれた運営はできていない 	<ul style="list-style-type: none"> 発達特性や既往歴のある児も多く、地域交流や地域の方を呼んでの行事は行うことが安全面(感染リスク含め)を考慮すると難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 遠足、バス散歩等で児童ホームや他施設を利用したりするなかで交流を図っている
3	<ul style="list-style-type: none"> 母子通園は兄弟児がいる家庭にとって利用がしにくい面がある 兄弟児支援の機会は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の仕事や兄弟児の環境などにより母子通園することが難しいこともある 	<ul style="list-style-type: none"> 母子通園や分離事業の利用方法、時間等についてはニーズに合わせて今後検討していく 兄弟児の預かり施設の案内をしていく